

道徳だより こころざし

令和3年3月16日
第3号
志布志市立通山小学校

一年間ありがとうございました

昨年度から、「特別の教科 道徳」が完全実施され、教科書を使っての授業を進めてまいりました。通山小では、今年度も子どもたちの道徳性の育成に力を注いできました。

《子どもの振り返りより》

- 人のことを考えた行動をしていきたい。
- 自分もトイレのスリッパを並べたりして、次の人のことを考えて行動していきたい。
- 靴が並んでないときは、気づいたら自分のでなくてもしてあげたい。
- 人のことを考えた行動をすると、次の人はきっと感謝してくれると思った。
- 水道が上を向いていたときに、次の人のことを考えて、下に向けてあげたい。
- 相手が見ていないところでも、親切にすることができるんだな。

2年生の授業より

<こんな学習をしました>

「三つのつつみ」という教材を使って、「親切、思いやり」についての学習をしました。

<ねらい>

次に来る人のために自分がすべきことをするデルスウの行為の素晴らしさに気づき、人を思いやり進んで親切にしようとする心情を育てる。



教材の内容

昔、ロシアのウスリー地方に、年老いた猟師、デルスウが住んでいました。デルスウは地理学者のアルセーニエフに頼まれて山を案内していたときのことで。山奥の小さな小屋で休憩していました。お昼を食べ疲れた体を休めていると、なんとデルスウは薪割りをしていました。薪割りが終わると、アルセーニエフに塩とお米がほしいと頼みました。さらに、自分で持っていたマッチをそれぞれ別の皮袋に入れ、小屋の天井からひもでつるしてしまいました。デルスウは、ふいに、この山小屋に来る人がこまらないように準備していたのです。

三つのつつみをなぜ用意したのか気づいたとき

- 次の人のために考えているんだな。なんて優しい人なんだらう。
- デルスウは、人のことを考える優しい人物なんだな。
- 自分も気づいてあげるべきだったな。
- 優しい人だな。
- 死んでしまうかもしれないこまった人は、とても感謝するだらうな。



3年生の授業より

<こんな学習をしました>

友達と仲良く遊ぶために、だれとでも公平に関わることはとても大切なこと。でも、だれかをひいきしたり仲間はずれにしまったりという経験がどの子どもにもあるようです。今回は、「ぼくのボールだ」という教材を使って、遊びという身近な場面から「公正、公平」について学習しました。

<ねらい>

ドッジボールに勝つためにボールを回したのは「間違っていたのだろうか」と考えはじめた「ぼく」の思いから、誰とでも公平に接しようとする態度を養う。

教材の内容

「ぼく」のクラスでは、ドッジボールが流行っています。まさとくんはドッジボールが上手なので、まさとくんが外野に出たときはボールを回すようにしていました。

今日もドッジボールをしていると、まさとくんが当てられ、外野に出てしまいました。そのとき相手コートからボールが大きく転がってきます。そのボールをたかしくんが追いかけていきキャッチします。まもなく追いついた「ぼく」はたかしくんの持つボールを取り、いつものようにまさとくんに回しました。

しかし、たかしくんは自分が取ったボールを投げることができず、泣き出してしまいます。「ぼく」は何か間違ったことをしたのかなと思い始めました。

もし、自分が「ぼく」の立場なら…

- たかしくんが取ったボールだから、たかしくんに投げてもらおう。
- 取った人が投げるようにする。それがルールだから。
- 横取りはよくないからたかしくんに投げてもらおう。
- ボールを取られた たかしくんがかわいそう。
- まさとくんばかり投げたらずるいと思う。
- 勝ちたいからまさとくんに回す。
- みんな負けたくないからまさとくんに投げてもらおう。
- まさとくんが相手を当てたあとにボールをもらったらい。



《子どもの振り返りより》

○ これからは だれとでも楽しくすごすために

どんなことに気をつける？

- 友達とボールを分け合って遊ぶ。そうしたら友達がたくさんできる。
- 遊ぶときにはルールを守るようにする。
- えこひいきや差別をしないようにする。
- 不公平になるようなことをしたり言ったりしない。
- 相手のことを思いやって、みんなが「楽しい」と思えるようにしたい。
- 自分ばかり楽しむのではなく、みんなで楽しみたい。

